



支援物資をワゴン車に積み込む総社市とAMD Aの職員ら—総社市役所前で

九州豪雨 合同支援隊を派遣

総社市、AMD Aなど

九州北部の豪雨被害で、総社市と国際医療

同支援隊が6日、現地に向かって出発した。

NGO「AMD A」(本

同市とAMD Aは、

部・北区)、同市環境観光大使で登山家の野口健氏の事務所による合

国内での大規模災害発生時に被災地を支援する協定を結んでおり、

これまでに熊本地震や広島県の豪雨被害などに合同で職員を派遣している。今回は、赤磐市からAMD Aに派遣されている理学療法士の三宅孝士さん(55)、AMD A職員の松永健太郎さん(31)、総社市職員の赤星敬太さん(46)

と藤島道彦さん(39)の計4人が現地に向いて状況を把握し、必要な支援内容を検討する。市役所前で出発式があり、赤磐市の友実武則市長が「現地は雨が続いており、安全に気をつけながら最大限の活動を」と激励し

た。支援隊は、総社市の水をペットボトルに詰めた「チュッピールオーター」(500ミリ)480本や栄養ドリンク、子供用と大人用のおむつなどの支援物資をワゴン車に積み込んで出発。福岡市で野口

健事務所員と合流し、福岡県朝倉市に到着した。岡山県も消防庁長官の要請を受け、職員7人を乗せた消防防災ヘリを出勤。岡山市消防局は緊急消防援助隊4人を現地に派遣した。

【小林一彦】